

コ ラ ム

日本語同志の通訳も必要ではないか？

国際交流華やかなりし昨今、異文化間の意志疎通の難しさを説く論評は多く見かけるが、日本人同志、特に研究者間の意志疎通もなかなか難しいと感じている。研究問題懇談会の世話役を仰せ付かっていることもあつて、企業の技術者、研究者と大学の研究者の間の意志疎通にはがゆさを感じる人が多い。私の専門である製鋼の分野では、その技術が世界のトップ水準にあることは論を待たないが、また同時に、一種の飽和状態にあるように思われる。そこを打ち破るためには、新プロセスの開発が望まれている。その核となるものが大学の基礎研究の中にあることが望ましいし、事実、多くの新発見がなされているように見える。しかし、そのことに企業の方々が必ずしも関心を示されているようには思えない。企業の研究者の方々には、ぜひ、大学の基礎研究に積極的に興味を持っていただきたいと思う。ただし、大学の基礎研究が余り顧みられない原因の一つは大学の研究者側にもあるように思

われる。本来、大学における研究は、何ものにも囚われず、自由な発想に基づく基礎研究であるべきであるが、その研究成果の発表に当たっては、それをどう実用に結びつける可能性があるかといった、新知見を実際に適用するための翻訳の努力も必要ではないかと思われる。そのためには、実際の現場では何が起こっているかについても関心を持つ必要がある。講演大会における企業側の発表や、西山記念講座等、積極的に聴講していただきたいと思う。また、研究問題懇談会は企業の技術者、研究者と大学、公官庁の研究者が自由な雰囲気では話し合える場であるので、そのような場を利用して、お互いの意志疎通を密にしていきたいと思う。もちろん、そのようなことに日頃留意されている研究者の方々が、企業側にも大学側にも、大勢いらつしやることは承知しているが、そのような交流の輪をより広げ、日本独自の新しいプロセスが生まれ、現在の鉄鋼業の窮状を打開できればと思い、僭越をも顧みず、拙文をしたためた次第である。

(豊橋技術科学大学 川上正博)

新刊紹介

「設備診断技術ハンドブック」刊行のお知らせ

本会共同研究会設備技術部会において、昭和 58 年より企画・編集を進めてまいりました「設備診断ハンドブック」が刊行されました。

今日、日本の産業界に於ては設備の自動化・高度化が進み、鉄鋼業のみならず全ての業種で設備が生産活動の主役を果すようになってまいりました。したがって設備の機能精度を維持するメンテナンス業務は極めて重要なものとなつてきております。かつて「予防保全」というメンテナンス理論が日本に導入されて以来、メンテナンスの理論・活動・システム等は、その重要性の認識とともに発展してきましたが、その経済性および信頼性を追求した結果として、近年「設備診断技術」が適用されるようになってまいりました。

本書は、本会設備技術部会を中心に第一線の執筆陣によつて、設備診断技術の現状と今後の動向について、鉄鋼業はもとより、各種機械・電気設備等広範な業種にわたつて実例を豊富に盛り込み集大成したものであり、本技術の実践的なハンドブックとして広く御活用いただけるものと確信いたします。

本会では、下記のとおり本書を購読される会員に特別価格を設けることといたしましたので、ご希望の方は官製葉書にて本会宛お申込み下さい。

記

「設備診断技術ハンドブック」会員特価要項

1. 発行・体裁 昭和 61 年 12 月、B 5 判 350 ページ
2. 会員特価 8,800 円 (定価 9,800 円) 送料出版社負担
3. 申込方法 官製葉書にて、ご購入部数・送付先ご住所・ご氏名をご記入のうえお申込み下さい。(図書は丸善より振込用紙とともに発送されます)
4. 申込先 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 (〒100)
(社) 日本鉄鋼協会 庶務課 (担当 水野)
5. 支払方法 出版社より本書発送と同時に振込用紙をお送りいたしますので指定口座にお振込み下さい。
6. 注意事項 会員特価は一般書店では取扱いをいたしませんので必ず本会へお申込み下さい。
なお、発送等に関する問い合わせは下記へ直接お願いいたします。
(問合せ先) 丸善(株)出版事業部編集室 電話 03-272-0393 (担当 石寺)

(内 容)

1. 設備診断技術の概要
2. 回転機械診断技術
3. 静止機械診断技術
4. 電気設備診断技術
5. 油分析による診断技術
6. 鉄鋼における設備診断システム
7. 診断のための資料